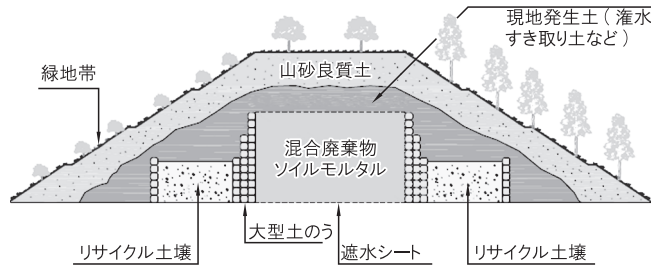


環太平洋諸国に提案

ジャパン 震災がれき活用策



堤体断面のイメージ。がれきを内部に封じ込めている

NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（スリムジャパン）の有岡正樹理事長は21日、環太平洋大学協会（APRU）が仙台市の東北大学で開催中のシンポジウムで、震災がれきの有効利用策を提案する。ジョン・ブラック豪州NSW大名誉教授と連名で、がれきを封じ込めた防潮堤を整備する「グリーンヒル構想」を発表する予定だ。巨大地震が懸念される環太平洋諸国に参考にしてもらう。

グリーンヒル構想は、遮水シートの上で混合廃棄物をモルタルで固めて堤体のコアを

構築し、その両サイドにコンクリートがらなどを配置、全体に灌水すき取り土壌、良質土を被せて高さ20m程度の堤

体を整備する。堤体は高潮防護機能を持つと同時にレクリエーション機能の場にもなる。民間資金を活用するPFIなどで整備する構想だ。今回のシンポジウムでは、巨大地震や津波によるがれき発生に対する備えとして、環太平洋諸国向けに提案する。スリムジャパンはこれまで、トンガ王国政府などにも提案

を行ってきた。APRUは、環太平洋諸国の大学で構成する組織。「自然災害リサーチ・シンポジウム」は東北大学を会場として20日に開幕し、22日まで開催する。

